



United Nations  
Educational, Scientific and  
Cultural Organization

国際連合教育科学  
文化機関(ユネスコ)



Iwami Ginzan Silver Mine and  
its Cultural Landscape  
Inscribed on the World Heritage List in 2007

石見銀山遺跡とその文化的景観  
2007年世界遺産一賞登録地

世界遺産

# 石見銀山遺跡と その文化的景観

公式記録誌

島根県教育委員会

—— 世界遺産 ——

# 石見銀山遺跡と その文化的景観

公式記録誌



島根県教育委員会

## 例 言

1. 本書は、ユネスコ（国際連合教育科学文化機関）の「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約」（世界遺産条約）に基づき「世界文化遺産」に登録された「石見銀山遺跡とその文化的景観」について、その学術的根拠、遺跡の現状、登録までの歩みをまとめたものである。
2. 本書に掲載したもののうち、第1章については文化庁記念物課主任文化財調査官本中 眞氏に玉稿を賜った。また第2章及び第3章については、日本国政府よりユネスコ世界遺産センターに提出された「世界遺産登録推薦書」の本文と主要な図面・写真をもとに再構成したものを収録した。
3. 本書の作成は以下の組織で行った。  
島根県教育委員会  
野村純一（参事）  
和田謙一（同世界遺産登録推進室長）  
林原幹治（同企画幹）  
椿 真治（同主幹）  
引野佳幸（同企画員）  
目次謙一（同文化財保護主任）  
田原淳史（同文化財保護主任）  
ト部吉博（文化財課課長）  
黒崎寿政（同課GL）  
大矢根久和（同主幹）  
佐々木慎二（同主幹）  
和田守弘（同主任）  
太田俊介（同主任）  
中木紗友美（同囑託）
4. 本書の作成にあたっては下記の機関の協力を得た。  
外務省・文化庁・大田市石見銀山課・石見銀山資料館・株式会社プレック研究所・井上松影堂

# 目 次

ごあいさつ 島根県知事 溝口善兵衛  
ごあいさつ 大田市長 竹腰 創一

**第1章 Ⅱ 「石見銀山遺跡とその文化的景観」  
の評価・審査をめぐって**  
文化庁記念物課主任文化財調査官 本中 眞 …1

## **第2章 Ⅱ 資産の内容**

1. 資産の特徴 ……………17
2. 資産の内容 ……………21
3. 登録の価値証明 ……………49
4. 資産の保護管理状況 ……………59
5. 関連資料 ……………67

**第3章 Ⅱ 資産の写真 ……………89**

**第4章 Ⅱ 世界遺産へのあゆみ ……………127**

ご 挨拶





## ごあいさつ

鳥根県知事 溝口 善兵衛

今年6月23日から7月2日までニュージーランドで開催された国連教育科学文化機関（ユネスコ）の第31回世界遺産委員会において、「石見銀山遺跡とその文化的景観」が、国内では14件目、鉱山遺跡としてはアジアで初めて世界遺産に登録されました。

平成8年に県と大田市が世界遺産登録の実現に向けた取組に着手して以来、実に10年余りに及ぶ歳月を要しました。この間、平成13年の暫定リストへの記載、平成18年1月のユネスコによる推薦書の受理、さらに同年10月の国際記念物遺跡会議（イコモス）による現地調査の実施など、登録に向けた歩みを着実に進めて参りました。

今年5月にイコモスがユネスコに提出した評価報告書で、大方の予想を覆す「登録延期」の勧告がなされ、関係者一同、愕然といたしました。その後、関係機関の総力を挙げた取組が実を結び、世界遺産委員会では一転して全会一致で登録が決議され、今年7月2日に世界遺産への登録が決定しました。

世界遺産「石見銀山遺跡とその文化的景観」は、石見銀山の採掘、製錬から運搬、積み出しに至る鉱山開発の総体であり、「銀鉱山跡と鉱山町」、「港と港町」及びこれらを結ぶ「街道」の3つの分野にわたる14の資産から構成されています。総面積は442ヘクタール、緩衝地帯を含めると3,663ヘクタールにも及ぶ広大な地域に広がっています。

また、製錬に必要な膨大な木材燃料が、適切な森林資源の管理の下で供給されるなど環境負荷の少ない鉱山経営が行われ、景観が保全されてきたこと、銀生産にかかわった人々の生活の痕跡が豊かな自然と相まって文化的景観として良好な状態で残存していることなどが、世界遺産委員会で非常に高い評価を得、世界遺産の登録につながりました。

このたび、推薦書の内容とこれまでの登録に向けた取組を記録し、世界遺産としての価値を正しく普及するために本誌を発刊しました。今後の保存・活用に大いに役立つことを期待しております。県としましては、先人や地元の皆様が守り続けてこられたこの石見銀山遺跡を、人類共通のかけがえのない宝物として未来に引き継ぐ努力を、大田市とともに続けてまいりたいと考えています。皆様の御理解と御協力をお願いする次第です。

終わりに、世界遺産登録に御努力いただきました外務省、文化庁や地元大田市をはじめ、長年にわたり御支援と御協力をいただきました皆様の御尽力に深く感謝申し上げますとともに、本誌の作成に御協力を賜りました皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成19年11月



## ごあいさつ

大田市長 竹 腰 創 一

本年6月23日からニュージーランドのクライストチャーチ市で開催された第31回ユネスコ世界遺産委員会において、「石見銀山遺跡とその文化的景観」の世界遺産一覧表への記載が正式に決定しました。

石見銀山遺跡につきましては平成8年以来、世界遺産登録をめざして鳥根県と大田市が中心となって、遺跡の全容解明に向けた総合調査を実施してまいりました。そして、平成13年に暫定リストに登録された以降は、シンポジウムや国際会議の開催などにより調査成果や遺跡がもつ顕著な普遍的な価値について国内外に情報発信を行ってきたところであり、また併行して資産を保護するために史跡指定の拡大や重要伝統的建造物群保存地区の選定、鉱区禁止地域の指定、景観保全条例の制定などを進めてまいりました。

さて、世界遺産登録までの歩みを振り返ってみますと、今から50年前、石見銀山のある大田市大森町において全戸加入の「大森町文化財保存会」が結成され、町をあげての文化財清掃や説明板・標柱の設置などの愛護活動が始まったことが大きな画期となり、今日まで引き継がれていることが登録に結びついたと言っても過言ではございません。ここで改めて今年結成50年を迎えられる町民の皆様に対し深甚なる敬意を表したいと思えます。

またご存じのように世界遺産委員会の会合において、I COMOS（国際記念物遺跡会議）の評価結果および勧告が「登録延期」を求めるものでありましたが、外務省および文化庁のご尽力により、自然との共生という視点が特に共感を得たこともあり、勧告を覆し「記載」となったわけであります。このことの大きな要因は「石見銀山遺跡とその文化的景観」が、世界遺産としての顕著で普遍的な価値を有しており、資産に対するこれまでの保全の取り組みと、今後の保存管理計画の内容が評価を受けたということに他なりません。この点はしっかりと認識しておく必要があると思えます。

石見銀山の歴史は約400年、この間多くの石見の先人たちが銀山としてその価値を継承してきたわけですが、今度は文化財の価値が認められ世界の宝となったわけです。大田市としましては平和と人権尊重のユネスコ精神に基づき、確実な保全と将来への継承になお一層努めていく所存でございます。

おわりに、世界遺産登録までご尽力いただきました外務省、文化庁、その他すべての関係者の皆様にご心から感謝申し上げます、ごあいさつと致します。

平成19年11月



